

【掲載日】 2013 年 1 月 24 日

【学科別】 物理科学科

【タイトル】

大学院博士後期課程 1 年の山田慧生君（浅田研究室所属）が宇宙物理分野における国際会議「JGRG22（RESCEU SYMPOSIUM ON GENERAL RELATIVITY AND GRAVITATION）」で優秀講演賞（パラレルセッション，金賞）を受賞しました。

【本文】

賞の名称：

Outstanding presentation award for parallel speakers (gold prize)

優秀講演賞（パラレルセッション，金賞）

受賞者：

山田慧生（大学院博士後期課程 1 年）

発表題目：

Triangular solution to the general relativistic three-body problem

会議名など：

宇宙物理分野における国際会議

「JGRG22（RESCEU SYMPOSIUM ON GENERAL RELATIVITY AND GRAVITATION）」

2012 年 11 月 12-16 日

受賞日：

2012 年 11 月 15 日

【掲載日】2013年3月6日

【学科別】物質創成化学科

【タイトル】

大学院理工学研究科物質創成化学コースの丹野寿則君が「研究活動で特に顕著な成果を挙げた学生」として平成24年度弘前大学学生表彰を受けました。

【本文】

氏名：丹野寿則（博士前期課程2年，阿部研究室）

表彰理由：平成24年9月に開催された「平成24年度化学系学協会東北大会（公益社団法人日本化学会東北支部主催）」において、「ウィスカー構造の形成に起因したペリレン誘導体／フタロシアニン系光アノードの高出力化」と題した研究成果を発表し，優秀ポスター賞を受賞。

【掲載日】 2013 年 4 月 10 日

【学科別】 知能機械工学科

【タイトル】

知能機械工学科の伊藤昭彦教授が日本機械学会フェローに認定されました。

【掲載日】 2013 年 5 月 13 日

【学科別】 知能機械工学科

【タイトル】

大学院博士前期課程 2 年（知能機械工学コース）の石田卓也君（麓耕二研究室所属）が、日本伝熱学会東北支部学生発表会で優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。

【本文】

賞の名称：優秀プレゼンテーション賞

受賞者：石田 卓也（知能機械工学コース M2）

発表題目：ブタノール水溶液を用いた自励振動型ヒートパイプの可視化に関する研究

学会名：第 13 回日本伝熱学会東北支部学生発表会

受賞日：平成 25 年 5 月 11 日

【掲載日】2013年5月31日

【学科別】知能機械工学科

【タイトル】

理工学部の医工連携人材育成事業が弘前大学表彰を受賞しました。

【本文】

理工学研究科，医学研究科・附属病院，保健学研究科による医工連携を基盤として，医用システム関連の新産業創出を目指して，平成二十年度から五年間にわたり先導的な人材育成を行いました。医用システムの開発を先導する地域の技術者の育成に多大な貢献があったものであり，その功績が顕著であると認められ，弘前大学表彰を受けました。この事業の成果は，理工学研究科博士前期課程（知能機械工学コース）のカリキュラム新設に活かされ，平成25年度から大学院生を対象として医工連携健康科学教育が実施されています。



【掲載日】 2013 年 6 月 1 日

【学科別】 地球環境学科

【タイトル】

『降ひょうや竜巻に注意』（地球環境学科 児玉准教授）

【本文】

陸奥新報 2013 年 6 月 1 日（土）3 面掲載

2013年6月1日(土)陸奥新報 3面掲載



降ひようや
竜巻に注意
弘大児玉准教授
近年まれに見る豪雪
に引き続き、春先の低

温に悩まされた県内。桜やリンゴの開花が遅れたほか、田植え作業の遅れなど農作業にも影響を及ぼした。4月も雪が降るなど、天候不順だった本県。弘前大学大学院理工学研究科・地球環境学科の児玉安正准教授は、開花遅れなどをも

たらした低温に関し「きちんとしたデータがそろっていないので、確実なことは分からない」としながら、一般的に春には大陸からの高気圧、低気圧が日本列島に移動することで冬型の気圧配置が崩れることを指摘。「今年

低の冬型の気圧配置が続いたため、気温が上がらなかつたことが一因ではないか」と分析した。

これからの天候について「注意すべきはひょうと竜巻。初夏のころは大気が不安定なので注意が必要になる」と話した。(山本恵子)

は春になっても西高東

※この記事は、陸奥新報社提供です。
無断転載はできません。
[問い合わせ先]弘前大学理工学研究科
jm3505@cc.hirosaki-u.ac.jp

【掲載日】 2013 年 7 月 4 日

【学科別】 地球環境学科

【タイトル】

『竜巻，梅雨時に起きやすい』（地球環境学科 石田助教）

【本文】

東奥日報 2013 年 7 月 4 日（木）21 面掲載

2013年7月4日（木）東奥日報 21面掲載

梅雨時に起きやすい
弘大・石田助教
弘前大学大学院理工学
学研究科気象学研究室
の石田祐宣助教は「大
気が不安定になりやす
い梅雨の時期は竜巻が
起きやすい。注意が必
要」と話す。
青森地方気象台のデ
ータによると、弘前市
榑木・鬼沢地区が竜巻
に襲われた昨年7月5
日は、北日本の上空を
強い寒気が通過してい
た一方、本県の日本海
側に低気圧が接近し、
大気が不安定な状態だ
った。低気圧がもたら
す南からの暖かく湿っ
た空気と、北からの冷
たい海風がぶつかって
積乱雲が発達し、竜巻
が発生した。
石田助教は「200
8年6月に藤崎町で竜
巻が起きた時も気象状
況が似ていた。太平洋
側はやませの冷気があ
り地表と上空の温度差
ができにくい、日本
海側は大気が不安定に
なりやすいので特に要
注意」と指摘する。
（大友麻紗子）

※この記事は当該ページに限って
東奥日報社が利用を許諾したもの
です。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科
jm3505@cc.hirosaki-u.ac.jp

【掲載日】2013年7月12日

【学科別】物質創成化学科，知能機械工学科

【タイトル】

八戸工専・岩大工・一関高専・弘大理工の4校学術交流会において，大学院博士前期課程 物質創成化学コース1年の及川祐梨さんが最優秀発表賞を，同 知能機械工学コース1年の上野功樹さんが優秀発表賞を受賞しました。

【本文】

7月12日（金）に八戸工業高等専門学校において，八戸工業高等専門学校・岩手大学工学部・一関工業高等専門学校・弘前大学大学院理工学研究科の4校学術交流会が開催されました。この「学術交流会」は，参加校等の学術交流の協定書に基づき，研究内容等の紹介を通じて研究者間の交流を図るものです。

平成25年度は学生21件，教職員6件の計27件の発表があり，優れた発表に対して最優秀発表賞1件，優秀発表賞2件，特別賞1件が授与されました。弘前大学の6件の発表の中から2件の発表について，最優秀発表賞および優秀発表賞が授与されました。

最優秀発表賞

物質創成化学コース1年

及川 祐梨 さん（澤田 英夫研究室所属）

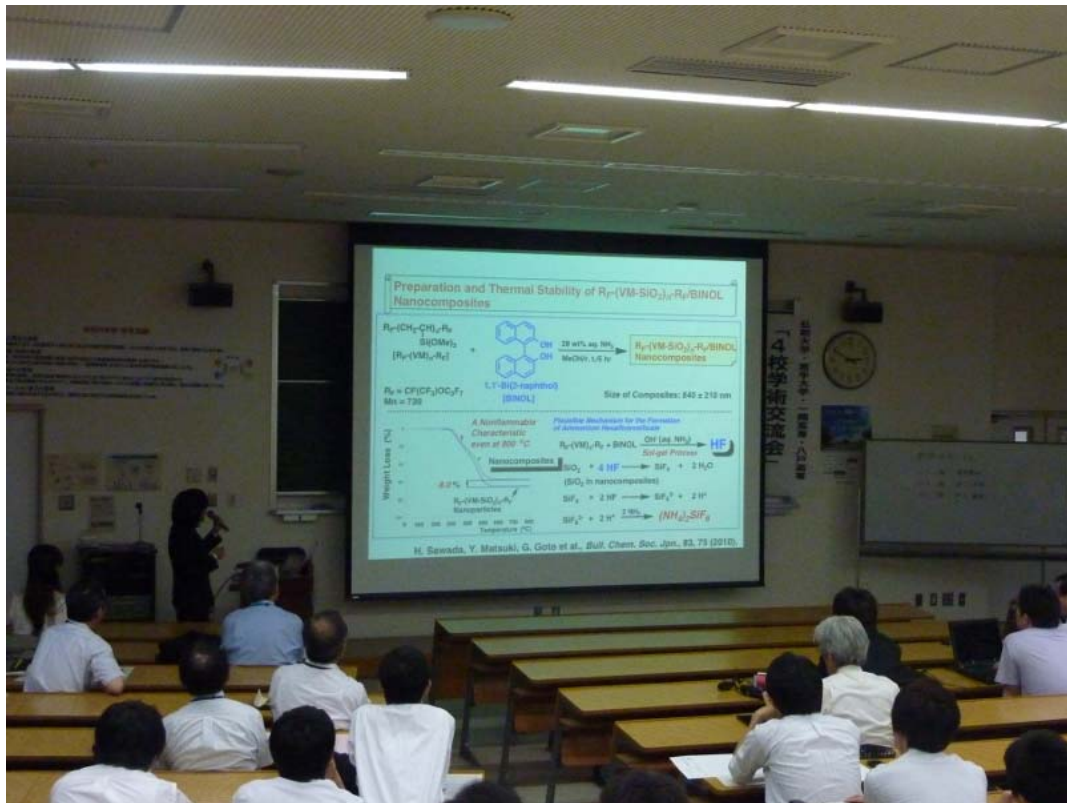
題目「低分子芳香族化合物がカプセル化されたフルオロアルキル基含有ビニルトリメトキシシランオリゴマー/シリカナノコンポジット類の調製と耐熱性および耐光性」

優秀発表賞

知能機械工学コース1年

上野 功樹 さん（佐藤 裕之研究室所属）

題目「RBTによる2017アルミニウム合金の高温強度の改善」



及川 祐梨 さん



上野 功樹 さん

【掲載日】 2013 年 7 月 12 日

【学科別】 理工学部全般

【タイトル】

中国太原理工大学教員 本学部を訪問

【本文】

7月12日（金）、中国 太原理工大学教員10名が本学部へ訪問され、本学部との今後の交流や情報交換等、和やかな雰囲気の中で行われました。



【掲載日】2013年7月26日

【学科別】知能機械工学科

【タイトル】

大学院博士前期課程2年（知能機械工学コース）の山口慶太君（佐川研究室所属）が、計測自動制御学会東北支部 優秀発表奨励賞を受賞しました。

【本文】

賞の名称：優秀発表奨励賞

受賞者：山口慶太（知能機械工学コース M2）

発表題目：タブレット端末を用いた二重課題歩行計測システム

学会名：2013年度第281回計測自動制御学会東北支部研究集会

受賞日：2013年7月26日



【掲載日】 2013 年 8 月 7 日

【学科別】 物質創成化学科

【タイトル】

大学院博士後期課程 1 年谷脇 且君と岡崎雅明教授の論文が，日本化学会速報誌 Chemistry Letters にて，Editors Choice として掲載されました。

【本文】

論文題目：

C(sp³)-N(sp) Bond Cleavage of Isocyanides at a Cationic [CCH] Subunit in a Bisdisphenoidal Eight-atom Tetrairon-Tetracarbon Cluster

著者：

Wataru Taniwaki, Masaaki Okazaki

Chemistry Letters

Vol. 42, No. 8, P 807-809, (2013)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/cl/42/8/42_130337/_article

【掲載日】 2013 年 8 月 10 日

【学科別】 知能機械工学科

【タイトル】

知能機械工学科 城田農助教が日本混相流学会の論文賞を受賞しました。

【本文】

賞の名称：2012 年度 日本混相流学会賞 論文賞

受賞者：城田農，佐藤文香，真田俊之，渡部正夫

論文題目：気泡後部トロイダル渦の抗力への寄与

学会名：日本混相流学会

受賞日：平成 25 年 8 月 10 日

【掲載日】 2013 年 9 月 13 日

【学科別】 知能機械工学科

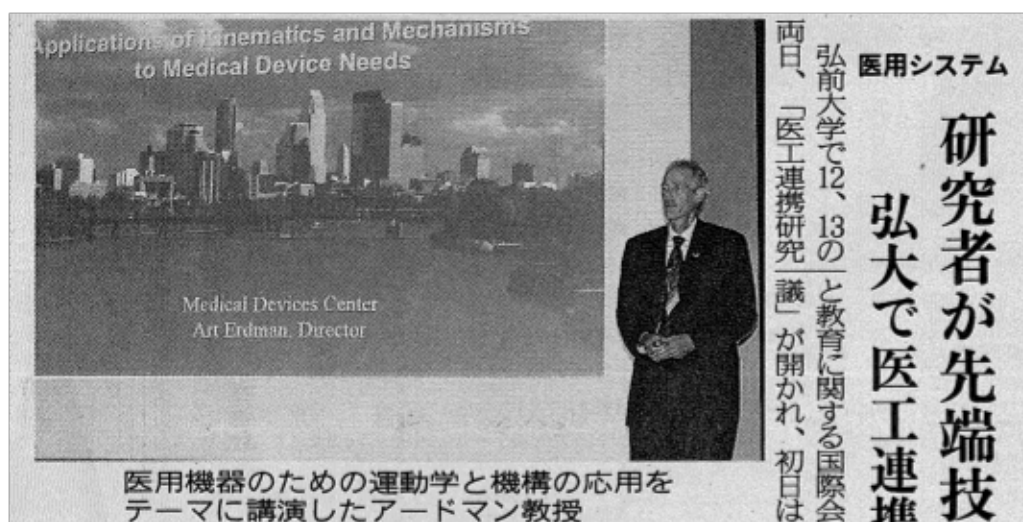
【タイトル】

『弘大で医工連携国際会議』

【本文】

陸奥新報 2013 年 9 月 13 日（金） 5 面掲載

2013年9月13日 (金) 陸奥新報 5面掲載



医用システム

研究者が先端技術紹介 弘大で医工連携国際会議

弘前大学で12、13のと教育に関する国際会議「医工連携研究」が開かれ、初日は

国内外で活躍する著名な研究者が、医用システムに関する先端技術などを紹介した。

同大は医用システム関連の新産業創出を目指す研究などに力を入れており、国際会議は同大学創立60周年記念事業の基金を活用して実施。

アメリカ、韓国や国内の医用システム関連研究・教育事業で中心的な研究をしている研究者が2日間にわたり、八つの招待講演と24件の一般（ポスター）講演を行う。

約100人が出席した初日の会議では、同大の佐藤敬学長が「今回の国際会議を通して革新的な医学技術の先駆者となり、技術を支える者になりたい」と歓迎の言葉を述べた。

同日の招待講演では3人が講演。米国ミネソタ大学のアーサー・G・アードマン教授は「医用機器のための運動学と機構の応用」と題して講演。多くの特許を出願している同大学のメディカル・デバイス・センターについて、これまで開発した新技術などを解説した。（宮崎新）

※この記事は、陸奥新報社提供です。
無断転載はできません。
[問合せ先]弘前大学理工学研究科
jm3505@cc.hirosaki-u.ac.jp

【掲載日】 2013 年 10 月 2 日

【学科別】 知能機械工学科

【タイトル】

知能機械工学科の伊藤昭彦教授と鳥飼宏之准教授に，International Scale Modeling Committee より，感謝状が授与されました。

【本文】

第 7 回スケールモデリング国際会議開催（開催日 2013 年 8 月 6 日～9 日）にあたり，知能機械工学科の伊藤昭彦教授と鳥飼宏之准教授が，それぞれ，実行委員長・大会秘書として尽力されたことに対して，International Scale Modeling Committee より，感謝状が授与されました。





**THE RICHARD EMORI
AWARD**

presented to

Prof. Akihiko Ito

*for the recognition of your pioneer study
on scale modeling of flame spread over
liquids, and your unique scholarship role
inspiring young researchers.*

**THE INTERNATIONAL SCALE MODELING
COMMITTEE CHAIR
KOZO SAITO**

August 8, 2013

August 8th 2013

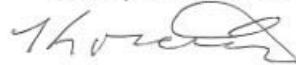
**Certificate of Appreciation for Outstanding Service for the ISSM7
presented to**

**Professor Hiroyuki Torikai
ISSM-7 Secretary**

**for recognition of your dedicated service for the
7th International Symposium on Scale Modeling (ISSM-7) at Hirosaki, Japan**

from

**International Scale Modeling Committee
Chair, Kozo Saito**



【掲載日】 2013 年 10 月 3 日

【学科別】 知能機械工学科

【タイトル】

大学院博士前期課程 2 年（知能機械工学コース）の石田卓也君（麓耕二研究室所属）が、The 10th Asian Thermophysical Properties Conference で Best Student Paper Awards を受賞しました。

【本文】

賞の名称：Best Student Paper Awards

受賞者：石田 卓也（知能機械工学コース M2）

発表題目：Visualization Study on Open-loop Pulsating Heat Pipe using Self-rewetting Fluids

学会名：The 10th Asian Thermophysical Properties Conference

受賞日：平成 25 年 10 月 3 日



【掲載日】 2013 年 10 月 22 日

【学科別】 物質創成化学科

【タイトル】

大学院博士後期課程 3 年 郭 素娟さんが, International Union of Pure and Applied Chemistry : 9th International Conference on Novel Materials and their Synthesis (NMS) で IUPAC Poster Prize を受賞しました。

【本文】

賞の名称 : IUPAC Poster Prize

受賞者 : 大学院博士後期課程 3 年 郭 素娟

講演題目 : Preparation and Photocatalytic Activity of Fluoroalkyl End-capped Vinyltrimethoxysilane Oligomer/Anatase Titanium Oxide Nanocomposites-encapsulated Low Molecular Weight Aromatic Compounds

学会名 : International Union of Pure and Applied Chemistry : 9th International Conference on Novel Materials and their Synthesis (NMS)
10 月 17 日~22 日 (場所 : Fudan University, Shanghai, China)

【掲載日】2013年10月24日

【学科別】知能機械工学科

【タイトル】

消防庁消防研究センター平成25年度消防防災科学論文一般の部において、後藤麻友さん（知能機械工学コース M1）と伊藤昭彦教授が消防庁長官優秀賞を受賞しました。

【本文】

賞の名称：消防庁長官優秀賞

（消防庁消防研究センター平成25年度消防防災科学論文一般の部）

受賞者：後藤 麻友（知能機械工学コース M1）、伊藤 昭彦 教授（知能機械工学科）

論文題目：微量のエタノール添加によるウォーターミスト消火性能の向上

受賞日：平成25年10月24日



表彰状

優秀賞
一般の部

弘前大学大学院理工学研究科

後藤麻友殿
伊藤昭彦殿

あなたは平成二十五年度消防防災
科学論文の作品募集において
頭書のとおり優秀な成績を
おさめられました。

よってこれを表彰します

平成二十五年 十月二十四日

消防庁長官 大石利雄



【掲載日】 2013 年 10 月 25 日

【学科別】 物質創成化学科

【タイトル】

物質創成化学科 鷺坂将伸助教, 岩間修穂氏, 玉田隼也氏, 物質創成化学科 吉澤篤教授が, The Japan Society of Colour Materials 85th Anniversary Conference (色材協会創立 85 周年会議) にて, JSCM President Award を受賞しました。

【本文】

10 月 24～25 日(場所:東京、タワーホール船堀)に開かれた The Japan Society of Colour Materials 85th Anniversary Conference (色材協会創立 85 周年会議) にて, 下記内容の口頭発表 (英語) を行い, JSCM President Award を受賞しました。

タイトル : Efficient Nanoparticle Synthesis Using Water-in-Carbon Dioxide
Microemulsions Prepared with a High-Solubilizing-Power Fluorinated Surfactant

発表者 : Masanobu SAGISAKA, Shuho IWAMA, Junya TAMADA, Atsushi YOSHIZAWA

【掲載日】2013年10月25日

【学科別】物質創成化学科

【タイトル】

大学院博士前期課程1年 嶋村拓人君が色材協会創立85周年記念会議でポスター賞を受賞しました。

【本文】

大学院博士前期課程1年 嶋村拓人君が10月24日～25日（場所：タワーホール船堀：東京都江戸川区）に開催された色材協会創立85周年記念会議（85th JSCM Anniversary Conference “Toward Colour and Coatings in the Next Generation”）でポスター賞を受賞しました。

賞の名称：ポスター賞

受賞者：大学院博士前期課程1年 嶋村拓人

講演題目：フルオロアルキル基含有オリゴマー/ホウ酸/シリカナノコンポジット類の調製と耐熱性

学会名：色材協会創立85周年記念会議（85th JSCM Anniversary Conference “Toward Colour and Coatings in the Next Generation”）

10月24日～25日（場所：タワーホール船堀：東京都江戸川区）

【掲載日】 2013 年 10 月 30 日

【学科別】 地球環境学科

【タイトル】

『竜巻，ヤマセ研究紹介 学会支部が気象講演会』（地球環境学科 児玉准教授）

【本文】

東奥日報 2013 年 10 月 30 日（水）17 面掲載

竜巻、ヤマセ研究紹介

学会支部が気象講演会

弘前

気象講演会（日本気象学会東北支部主催）

が20日、弘前市の弘前大学創立50周年記念会館「みちのくホール」で開かれ、竜巻など突



竜巻など突風研究の最前線の情報を紹介する気象庁気象研究所の楠研一氏

風に関する研究や、本県などに春から秋にかけて吹く季節風「ヤマセ」に関する研究情報を約60人が学んだ。

気象庁気象研究所気象衛星・観測システム研究部の楠研一・第四研究室長は、「突風研究の最前線」と題して講演した。

茨城県つくば市などを2012年5月に襲った竜巻を、同市にある同研究所の気象レー

ダーが捉えていたことを紹介。「貴重なデータが採れた。レーダーで（竜巻を）追いかければ、『あと15分で竜巻が来る』などといったことが分かる。例えばエリアメール（避難指示などの緊急情報を特定地域の携帯電話に一斉配信するメール）を出せば、助かる可能性もある」などと竜巻対策の将来像を披露した。山形県庄内地方で自身などが携わっている、気象レーダーなどによる突風探知の取り組みも紹介した。

弘前大学大学院理工学研究科の児玉安正・寒地気象実験室長は、「ヤマセの観測」と題して講演。風速、気温、湿度などが分かる観測機器「気象ゾンデ」を気球で上空に上げ、五所川原市と三沢市の観測結果を比較したり、電波で上空の風を観測する装置を使った六ヶ所村での観測などを紹介。「ヤマセの局地的予報の精度向上を目指し、風力発電や太陽光発電の運用に活用したい」などと語った。

（中村規久夫）

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

[問合せ先]
jm3505@cc.hirosaki-u.ac.jp

気象講演会

身近な風を知る — 突風とヤマセ —

昨年7月、弘前市では竜巻が発生し大きな被害を受けました。
また、東北地方に吹くヤマセは稲作にしばしば大きな影響を与えてきました。
風はわれわれの日常生活に深く関わっています。
本講演会では、突風とヤマセについて最新の研究成果をご紹介します。
多数のご来場をお待ちしております。

講師及び演題

「突風研究の最前線」

講師：楠 研一 氏

(気象庁 気象研究所 気象衛星・観測システム研究部 第四研究室長)

※ この画像はイメージです。

「ヤマセの観測」

講師：児玉 安正 氏

(弘前大学 大学院理工学研究科 寒地気象実験室長)



気球を用いたヤマセの観測

日時

平成25年

10月20日(日) 13:00~15:30(開場12:30)

場所

弘前大学創立50周年記念会館 「みちのくホール」
〒036-8560 弘前市文京町1番地

入場
無料

主催：日本気象学会東北支部 共催：青森地方気象台
後援：青森県、弘前市、弘前大学大学院理工学研究科、アップルウェーブ株式会社
問合せ先：青森地方気象台 / TEL 017-741-7413

主催：日本気象学会東北支部 共催：青森地方気象台
後援：青森県、弘前市、弘前大学大学院理工学研究科、アップルウェーブ株式会社
問合せ先：青森地方気象台 / TEL 017-741-7413

「突風研究の最前線」



気象庁 気象研究所 気象衛星・観測システム研究部
第四研究室長

くすのき けんいち

楠 研一氏

気象庁気象研究所では、安全・安心な社会のための最新の気象観測システムの開発・評価などを行うと共に、それらを用いたさまざまな大気現象の観測・探知の研究を行っています。

時として大きな災害をもたらす竜巻などの突風について、その実態や発生原因を解りやすく説明するとともに、気象研究所で行われている研究の最前線を紹介します。

「ヤマセの観測」



弘前大学 大学院理工学研究科 寒地気象実験室長

こだま やすまさ

児玉 安正氏

ヤマセは、冷害をもたらす風として恐れられてきました。一方、風力発電の盛んな青森県では、ヤマセは夏季のエネルギー資源としても重要です。私どもは、ヤマセを対象に青森県内で気球を用いた高層気象観測を実施してきました。2009年より行っている観測の風景と結果、並びに数値モデル実験で明らかになった青森県内のヤマセの立体的な振る舞いについて紹介したいと思います。

地図



交通案内

JR弘前駅から

- ・徒歩の場合 約20分
- ・バスを利用する場合 約15分
駅前から「狼森(おいのもり)行」
「自衛隊行」「学園町行」
「小栗山行」に乘車、
「弘前大学前」又は「弘大農学生
命科学部前」下車。
- ・タクシーを利用する場合 約5分

弘南鉄道

- ・弘高下駅で下車し、
徒歩の場合 約5分
- ・弘前学院大前駅で下車し、
徒歩の場合 約7分

【掲載日】 2013 年 10 月 30 日

【学科別】 物質創成化学科

【タイトル】

大学院博士後期課程 2 年 續石 大気君が, International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan (化学系学協会東北大会及び日本化学会東北支部 70 周年記念国際会議) で優秀ポスター賞を受賞しました。

【本文】

賞の名称 : 優秀ポスター賞

受賞者 : 大学院博士後期課程 2 年 續石 大気

講演題目 : Interaction of Fluoroalkyl End-capped Oligomer/Polyaniline Nanocomposites with Silica Fine Particles Possessing Amino Groups

学会名 : International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan (化学系学協会東北大会及び日本化学会東北支部 70 周年記念国際会議)

10 月 28 日～30 日 (場所 : 東北大学)